

掛川市学校再編計画(案)に関するパブリックコメント

- 1 実施期間 令和5年5月1日(月)～5月31日(水)
- 2 意見数(人数) 92 件(46 人)
- 3 意見の内訳

項目	件数	項目	件数
はじめに	4	(1) 学区編成の考え方について	4
1 計画の策定にあたって	0	(2) 統廃合について	6
(1) 計画策定の目的	3	(3) 学校の設置位置について	4
(2) 計画策定の背景	0	(4) 通学の負担軽減と安全確保について	9
(3) 計画期間	1	(5) 未来の学校・教室づくりについて	0
2 掛川市の現状と課題	0	(6) プールについて	1
(1) 人口・児童生徒数の推移と推計	3	(7) 他の公共施設との複合化について	0
(2) 学校施設の現状	1	(8) 事前交流活動について	1
3 掛川市が目指す教育と施設のあり方	0	6 学校再編の進め方	0
(1) 園小中一貫教育	2	(1) 住民との対話に基づく学校再編の推進	8
(2) 適正規模適正配置	6	(2) 学校再編の着手順を決定するための優先事項	0
(3) 施設のあり方	5	(3) 学校再編の検討に着手する順番	3
4 学校再編の基本方針	0	(4) 小学校の統合	1
(1) 園小中一貫教育の推進	2	(5) 児童・生徒の不安軽減に向けた取組	1
(2) 中学校区学園化構想の推進	0	7 学校再編後の学校施設	2
(3) 多様な教育活動ができる集団規模の確保	4	学校再編評価表	0
(4) 安全・安心な教育施設の整備	2	学校再編スケジュール	0
(5) 地域とともにある学校の推進	6	その他	13
5 学校再編を進める際の留意事項	0	合計	92

4 計画への反映状況

対応区分

A 反映するもの	4
B 今後、検討の際に参考にするもの	46
C 計画内に記載済みのもの	20
D 反映が困難なもの	17
E 質問等に対する回答を行うもの	5
合計	92

- ・御意見は計画(案)中の該当ページ順に掲載しています。
- ・頂いた御意見は原文のまま掲載しています。
- ※一部誤字や個人を特定しうる情報については修正しています。

学校再編計画(案)パブリックコメント意見一覧(令和5年5月1日(月)～31日(水)実施)

No.	ページ	項目	意見	市の考え	対応区分
1	3	はじめに	教育の未来は明るくも、多様であるので、公立小学校・中学・高校の使命も時代性の中で、変化が求められるのでしょうか。AIが世界を変える中で、AIを適切に活用できる「自然への畏敬」や「探求する心」、そして「他者を認め、更に他者と一緒に、私達の考察が創造できるように」子供達を育む教育となるよう、期待し、楽しみにしています。	学校教育、とりわけ義務教育の間には、インターネットを介さない直接的な人間関係の中で他者と関わる力を養ったり、様々な体験をすることが大切であると考えています。それには、学校の教職員だけではなく、地域の皆様の御協力が不可欠です。今後も、小中学校の教育にお力添えいただきますようお願いいたします。	B
2	3	はじめに	「学校は地域の太陽」と常に言いますが、学校がなくなった後の地域のことを考えて使用している言葉でしょうか。	地域を地区と考えると、再編・統合により学校はなくなります。地域を学区と捉えれば、地域の中に学校は存在することになります。市内には地区の中に学校が存在しない地区が複数存在しますが、学校のある地区と同様に地域活動は行われており、園や学校の活動にも御支援いただいています。学校を中心とした地域というのは必ずしも学校のある地区に限られるものではないと考えています。	E
3	3	はじめに	「地域の太陽」「輝いているこども」「これからの学校は子どもも大人も多くの人が集い……地域の大人が子どもたちを教え導いたり……」などと、述べているが、疑問を持ちます。こどもが輝くのは当然ですが、地域の活動、交流拠点であることも大事な要素で子どもがすべてかのような表現は違うと思います。また、現在でも、幼小中への授業ボランティア、交通安全街頭指導、見守り、学童保育など多くの大人が関与、支援活動を展開しています。当地区は小学校の統廃合が取り沙汰されていますが、仮に地区に学校がなくなれば、学校への関心は薄れる方向となり、様々な関与は減っていき学校は遠くなっていく可能性を孕んでいると思います。	学校の存在意義は複数あると思いますが、その中でも子どもたちの学び、育ちはもっとも重視されるべきものと考えています。しかし、地域の拠点としての機能についても決して軽視しているわけではなく、本計画においても施設のあり方や基本方針においてその点に言及しています。掛川市では、中学校区学園化構想のもとで、中学校区内の住民の皆さんに広く連携していただきながら、中学校、小学校、園の教育活動を支援、学校と地域との協働を進めていて、地区の枠組みを超えた教育活動が広く展開されていることから、地区から学校がなくなることで、関心が薄れたり、活動が低下するということはないと考えています。	C
4	3	はじめに	▲「全国に先駆けた」…特別に掛川市だけが突出した感を持ってない。このような表現が巻頭で語られることに違和感があります。 ◎「学校は地域の太陽」…よく例えられる表現です。理念としてすばらしいと思います。ここから本質的な議論が展開されることを望んでいます。	掛川市は、全国に先駆けてこれらの施策を展開してきましたので、この文言についてはこのまま掲載します。	D
5	4	1(1)計画策定の目的	未来を見据えた計画となっていると感じます。校舎の老朽化、子供の数の減少、教員確保の困難さ等々、様々な課題を解決することにつながるのではないのでしょうか。何より未来を生きる子供たちにつけるべき力を明確にし、時代に合わせた形での校舎・施設・設備を整えることは、大きな未来投資であると考えます。子供ファーストを謳い、進めてきた掛川市だからこそその再編となっていくことを強く願っています。	御意見のとおり子どもたちのことを第一に考えた学校再編を進めていきます。	B

No.	ページ	項目	意見	市の考え	対応区分
6	4	1(1)計画策定の目的	「掛川市の教育の質の一層向上」とありますが、現時点での掛川市の教育の質の評価と、何をさらに向上しないと質が向上しないのか知りたい。	掛川市の義務教育の現状については、小中学校とも子どもたちは比較的落ち着いた生活を送ることができており、学力面でも全国学力学習状況調査において、例年県平均を上回っていることから、比較的良好な状況にあると考えています。 しかしながら、不登校の児童・生徒の増加や学力分布の二極化傾向など全国的な課題が掛川市にも起こっており、これらの対応をさらに充実していく必要があります。また、GIGAスクール構想によるタブレット端末が導入され授業改革を進めていかななくてはならない状況の中で、授業研究に注力できる職員の働き方改革も急務となっています。 これらの課題に対応するためにも、小中一貫教育の推進と学校再編を速やかに進めていく必要があると考えています。	E
7	4	1(1)計画策定の目的	○同感 ▲と同時に、今まで築き上げられて来た『変わらないものの良さ』も内包した理念も存在することが、これからの時代に対応していく大切な資質のひとつであることを意識したい。	変化の激しい中にあっても変わらない価値観は存在しますので、教育においてもその点に留意しながら施策を展開していきます。	B
8	5	1(3)計画期間	掛川の小中学校の校舎がほぼ同じ時期に建て替えの目安になるのに、再編計画による小中の統一校の完成の計画が目安の時期より大幅に後になります。本当に校舎の耐久性等に対しては大丈夫でしょうか？ 校舎を新しくするには財源の確保が必要ですが、こちらについては元々建て替え等が必要なことは分かっていた事ですよね？ 何故掛川市としてもっと前々から準備して財源確保がしっかりされていなかったのでしょうか？ 正直、小中統一校の完成予定が30年以上後となると、教育委員会も掛川市としても今とは体制が変わって、再編成が本当に実現するのも不安です。 少子化の観点や校舎の耐久年数からしても、再編成をするのはもっと急務でやるべきだと思います。校舎の建て替えについても低コストでいかに良い校舎を作るかも、具体的に提示して欲しいです。 公共事業と同じように入札で業者の選定をするのかと思いますが、業者のプレゼンや金額の提示についてももっと市民に情報開示をしてもいいのかなと思います。 是非ご検討をお願いします。	今後は建替えをしていく施設と、長寿命化や大規模改修工事により安全性と快適性を確保しながら使用期間を延ばしていく施設とに区別しながら維持管理を行っていく必要があります。再編の着手の順番が後ろの学校については、一切の改修を行わないということではなく、今後使用が予定される年数に応じて長寿命化工事や改修工事を行って、安全性や機能性の確保を図っていくことを計画内に記載します。 学校再編を速やかに進めていきたいと考えてはいますが、市全体で様々な事業を実施していくために学校の整備だけに注力できないことについて御理解ください。	A
9	6-8	2(1)人口・児童生徒数の推移と推計	徐々に減ってきている:コンパクトシティで住民の移動、掛川市づくりとつながっているの、減るのは仕方ない	児童・生徒数が著しく減少している地域もあり、望ましい教育環境とは言えない学校も出てきています。人口減少も見据えた再編計画を策定したいと考えています。	D

No.	ページ	項目	意見	市の考え	対応区分
10	6-8	2(1)人口・児童生徒数の推移と推計	人口、児童・生徒数の推移と推計であるが、2020年以降の出典は国立社会保障・人口問題研究所と記載されています。一方、掛川市総合計画によれば、様々な取り組みの成果も反映しながら2040年度でも11万人を維持する目標となっています。市の教育委員会としては、統廃合を進める上で現実的な？推計値を採用した再編計画(案)のようですが、公正さを欠くように感じます。市民に意見を求める上で、市の公式な目標値も併記すべきだと考えます。(4月の理事区長会で配布された市の総合計画抜粋資料には併記されている)様々な取り組みで言えば、国、県、市が真剣に少子化対策を講じ、また、地域においてもお茶などの産業振興、自治会活動の改革など、できる範囲の努力は必要だと考えます。	長期的な推計については総合計画の推計値に基づいていますが、御指摘のとおり総合計画で示しているのは人口の「目標値」であり、様々な施策を講じることで達成を目指すものです。現状では、コロナ禍の3年間の出生数は大きく減少し、より深刻な状況となっています。市としましては人口の減少が少しでもなだらかなるよう、子育て世代が安心して子育てができ、出生数が改善するように全力で取り組んでいきます。地域におかれましても、子育て世代や、今後地域を担う子どもたちが生活しやすい地域環境の整備など、少子化対策に御協力いただきますようお願いいたします。	D
11	6-8	2(1)人口・児童生徒数の推移と推計	▲「少子化が進むことが危惧」→データの上で少子化は事実、だが、「危惧」という表現は不適。→「予想」「想定」が適切。 ※危惧や恐れという表記は、読み手に不安を与える。事実を客観的に伝えるには要一考。	近年、急激に少子化が進んでいることから、人口構成の変化や、社会の担い手不足によって今後様々な社会課題が発生することが懸念されています。ここでは、単に少子化が進むという事実にとどまらず、それに伴って様々な課題が発生するであろうことも加味して危惧という言葉を使っています。	D
12	8-9	2(2)学校施設の現状	掛川市内の学校施設は、昭和40～50年代にかけて建築されているものが多数との説明であるが、建て替えサイクルを60年で設定されているのでしょうか？ある文献によると、国は公共施設の長寿命化を重視しており80年サイクルの長寿化改良への転換を推進している由。掛川市が公共施設再配置全体の概要として示している50年間で25%削減は、そのサイクル設定次第で幅があるように思います。施設の削減が少しでも緩やかになればと思う次第です。中長期の財政的な事情は、ある程度理解出来ますが、建て替えサイクルのほか、様々な分野で進歩改革もあり、状況は変化すると思われま。故に50年間で25%削減は、大きな目標であるが、統廃合などで多少の誤差は生じて、吸収できる余地はあると思えます。	既に老朽化している施設では、雨漏りや漏水等の不具合が発生しています。既存の施設を80年使うためには、大規模修繕工事や長寿化工事を行って、安全性や利便性を確保する必要があり、それには費用が必要です。削減を先延ばしにすれば、維持管理コストが増加します。一般的には老朽化した建物ほど維持管理コストが嵩みます。一方で新設の際には多額の建設費が必要になることから、すべての学校を短期に再編することは困難です。従って、今後は学校再編による施設の集約と、長寿命化を織り交ぜながら、段階的に施設数を削減していきます。	D
13	10	3(1)園小中一貫教育	また、施設一体型を設置することが可能であれば、小中一貫学校ではなく義務教育学校の設置がより良いのではないかと思います。	再編後の一体校を、一貫型の小学校・中学校とするか、義務教育学校とするかについてですが、現状、義務教育学校では法律(教育職員免許法)の附則の規定によって当面の間については、教員は小学校か中学校のどちらかの免許を有していれば義務教育学校に勤務することが出来ますが、附則がなくなった場合には、小中学校の両方の免許を保有する教員しか勤務できないこととなります。そうなりますと、教員の配置に際して大きな制約となる恐れがありますので、本市の小中一体校では、一貫型の小学校・中学校としていきたいと考えています。一貫型の小学校・中学校でも、一体型という施設形態を生かした効果的な小中一貫教育の実施は可能であると考えています。	D

No.	ページ	項目	意見	市の考え	対応区分
14	10	3(1)園小中一貫教育	<p>再編計画は、市という公の機関が小中の連携を図った教育を行う事が貴いと思いましたが。例えば予備校などではテストの点数が目的だったりしますが、それは市の報徳思想とは相容れません。知識や経験からトータルの内面を作る事が目的で、勉強はその手段のほうです。</p> <p>なので再編計画の施行に伴って、一人一人が何故勉強するかを明確に出来る仕組みがあったら良いなと思いましたが。例えば将来の夢を発表する授業に、その目標と今の勉強が具体的にどう繋がっているかを考えさせる機会を設けるなどです。目標と今学んでいる内容の紐づけは難しいですが、小学校低学年の学生が中学の上級生からアドバイスを貰えれば目標への道筋を把握しやすくなります。そして意欲のある児童が知識を先取りして吸収できれば良い循環になります。逆に勉強や対人折衝に難がある人に対しては、小中一貫校ならではの自信が付き施策があれば良いなと思いましたが。例えば匿名のアンケートフォームに苦手分野・相談を書いて、対策を有志の上級生が同じく匿名で回答するといった流れです。匿名なら自信が無くても聞きやすいですし、同じ空間にいる誰か、特に年齢の離れた上級生がアンサーを出してくれたという事が学校への安心感に繋がります。</p>	<p>小学生と中学生と一緒に学校生活を送ることを心配する方が多くいらっしゃると思いますが、他市の一体型小中一貫校では小学生、中学生の双方が良い影響を受けているとの情報をいただいています。</p> <p>小中学校の縦の繋がりを有機的に活用することによって分離型の一貫校では出来ない様々な教育活動が展開できるのではないかと考えています。最初に着手をする学園において様々な取り組みを行いながら、次に続く学園に良い影響を波及させていきたいと考えています。</p>	B
15	10-11	3(2)適正規模適正配置	<p>小学校単学級：人数の少ないほうに目がいき、説明者から「非常に苦しい」と話していたが、何がどう苦しいのか</p>	<p>学校は学級数に応じて配置される教職員数が決まります。小規模校では、教職員の人数は少なくなります。教職員が担うべき事務分掌の数は、規模の大きい学校と比べてそれほど変わらず、小規模校では1人の教員がいくつもの分掌を担当している等、学校運営上の課題が大きいという現状があります。</p>	E
16	10-11	3(2)適正規模適正配置	<p>深い学びが行いやすい環境へ：説明者から「ある程度人数がいなくてグループ分け等難しい」というが、学級集団学級経営のあり方を考えている教師からすると問題発言だと思う</p>	<p>クラス替えもなく、1学級の人数も少ない場合には、子どもたちは長期間にわたり固定された人間関係の中で過ごすこととなります。多様な考えに触れたり、様々な役割を担うことが難しくなることから、1学級には20人前後の子どもがいることが望ましいと考えています。</p>	D
17	10-11	3(2)適正規模適正配置	<p>「集団生活の中で多様な考えに触れて、…一定規模の集団の中で他者と関わり合いながら学ぶ環境が必要…」との説明があるが、市内の全学校一律に見直し整備すべきものなのか？科学技術の進歩で他校とのオンライン交流も可能となり、また縦割り交流活動等工夫すれば人間関係固定化の弊害も解決出来る余地はある。全国には小規模校の良さを生かした教育を実践している学校もあるのなら、掛川市でも地域が求める場合は、その検討の余地残すことを望みます。</p>	<p>インターネットを活用して多様な教育活動が実践できるようになったことから、離れた学校同士で交流活動や合同授業を行うことが可能になりました。しかしながら、学校教育では、子どもたちが社会性や人間性等を育むためには直接的な関わりが重要であり、それは授業だけではなく日常の様々な学校生活の中で培われるものだと考えます。義務教育段階において、特に複式学級の発生が危惧されるような小規模な学校においては、通学に過度な負担がかかる場合を除いて、近隣の学校と統合することで教育環境の改善を図ることができるのであれば、統合を進めるべきと考えています。統合を行うかについては、地域の皆さんと協議の上、決定していきます。</p>	B

No.	ページ	項目	意見	市の考え	対応区分
18	10-11	3(2)適正規模適正配置	<p>×メリット、デメリットの具体例の文章が一方的で稚拙、不適。全体の表記が教育的配慮に欠けている。</p> <p>「主体性や協調性、表現力や思考力といった特性……求められています。」「そのためには、一定規模の集団の中で他者と関わり合いながら学ぶ環境が必要です。」「そのような環境を確保できない学校も増えてきており…」の表記は全く不適切で理解できない。これを読んだ就学児を持つ保護者や就学予定の保護者の皆さんは何を感じるのでしょうか。不安を助長するような表記はやめるべきです。</p> <p>×適正規模、適正配置という言葉を、教育委員会がこのようなかたちで、再編や統廃合の前面に掲げて進めていくことにも賛意できません。適正規模を前面に押し出さなくても、十分に豊かな教育が保証されていることを居住区で感じています。</p>	<p>実際に認識されている課題について記載しています。小規模校ではこうした課題を少しでも解消できるように教職員が様々な工夫をして学校運営・学級運営を行っています。しかしながら、子どもの人数が減少することで、こうした創意工夫に限界があることも事実です。いたずらに不安を煽る意図はありませんが、課題を認識していただくために必要な記述であると考えています。</p>	D
19	10-11	3(2)適正規模適正配置	<p>1.「小さな学校」「小さなクラス」という世界の流れに逆行するのではないか？</p> <p>「学校再編計画」の中心は、小中一貫教育を進めるための学校施設の整備ということであるが、実質は小規模校を統廃合することで学校経費の効率化をはかるという公共施設マネジメントの一環となっている。</p> <p>経済開発協力機構(OECD)に加盟する38か国の初等学校(小学校)の規模は100人～200人程度である。それに対して、日本は現状でも300人を超えているのに、いま進められようとしている統廃合は、学校規模の適正化(小学校12～18学級)によって480人～720人という世界に例を見ない大規模校をめざすことになる。さらに、1学級当たりの児童・生徒数も、OECDの平均が小学校21.2人、中学校23.3人であるのに対して、日本の小学校は27.9人、中学校32.7人で、「小さな学校」「小さなクラス」をめざす諸外国とは大きな開きが生まれて、国連子どもの権利委員会から日本政府に勧告されている「過度に競争主義的な環境」を助長する心配がある。</p>	<p>市が再編・統合で目的としているのは、単に知識・技能と言った一般的に言われている学力のみを強化することではなく、社会性や人間性等の生きる力を育むことに重点をおいており、競争主義的な環境を市内の小中学校にもたらずものではないと考えています。</p>	D

No.	ページ	項目	意見	市の考え	対応区分
20	10-11	3(2)適正規模適正配置	<p>2.指摘されている「小規模校のデメリット」は本当にデメリットなのか？ 掛川市の小学校22校のうち半数の11校が単学級の小規模校である。小規模校のデメリットがさかんに強調されているが、小規模校の子どもたちの学習面・生活面で、具体的にどのような問題点が表れているのかは示されていない。むしろ一人ひとりの子どもに目が行き届き、一人ひとり子どもたちの活躍の機会が多くなり、人間関係も深まりやすいという小規模校のメリットの方が大きいと思われる。以下2、3の点について考える。</p> <p>「集団の中で多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会が少ない」ということであるが、集団の規模が大きければ、それができるのかははなはだ疑問である。大きな集団の中では集団から疎外される子どもも生まれる。個々の子どもの個性が発揮され、友達と関わりながら分かるまで学びあうためには、集団の規模が小さい方がいいのははっきりしている。また、単なる知識ではなく、その応用力、思考力、問題解決力など社会人になって求められる知的能力や知恵を身に付けるためには、少人数の協同学習が有効である。だからこそ「小さな学校」「小さなクラス」が世界の流れとなっている。</p> <p>「小規模校では人間関係や相互の評価が固定されやすい」というが、それは子どもにとってデメリットなのでしょうか。クラス替えができないのでいじめなどへの対応が難しいと言われていますが、いじめを生まないような人間関係作りが大切です。学校だけでなく家庭や地域の中で、親密で安定した異年齢の人間関係が大切です。そういう環境の中でこそ、自分が周りから大切にされているということが実感でき、自分が果たす役割や自分の言動が周りにどのような影響を及ぼすかを学び、自己肯定感や社会性が育ちます。社会性というのは周りの人たちと力を合わせて何かをしたり、集団の中で自分なりの役割をしっかりと果たしながら主体的に生活していく力です。「小さな学校」「小さなクラス」ほど、学習意欲や態度が積極的になり、子どもたちの人間形成・人格形成にとっても効果的であることが実証されています。</p>	<p>小規模の学校における課題は学校再編計画(案)に記載したとおりです。大きな集団では集団から疎外される子どもが生まれる、とのことですが、それは小規模な集団でも起こり得ることです。一つのグループから疎外されてしまうと、代替えのグループや集団のない小規模校では子どもの居場所がなくなってしまい、その影響はより深刻です。</p> <p>学校現場における実態は御意見のような内容ではなく、小規模校におけるデメリットをいかに解消させるのかを工夫しながら学校運営・学級運営を行っています。</p> <p>現在の学校(とりわけ小規模校)における状況をどう判断するのか、今後、保護者世代の皆さんを中心に現状を御理解いただいた上で、どのような教育環境が子どもたちにとってふさわしいのかを地域の皆さんと考えていきます。</p>	B
21	11-12	3(3)施設のあり方	<p>2. 校舎の増改築について 小学校を中学校に統合する場合、校舎やグラウンドなど設備施設等が課題と思います。中学校の教室や設備は、小学校とは異なるため、共通にする部分と小学生と中学生を分離する部分をどうするかが、単なる小学校の統合にならないようにするための十分な検討が必要と思います。</p>	<p>小中の一体校を整備する際には、小学生と中学生が施設を使用することを前提に整備を行っていきます。先進校の事例を参考にしながら、使用する子どもの年齢にあわせた施設を整備します。</p>	B
22	11-12	3(3)施設のあり方	<p>地域の物理的な基盤となる学校をどう残していくかは重要な課題だと感じます。小中の連携、小中の段差の解消のためには、施設一体型が望ましいと思います。一方、施設一体型となり、学校が統合されると地域のコミュニティの場となる学校がなくなってしまうことが問題として挙げられます。地域のコミュニティの場となる施設の利用方法について今後も検討を続けていく必要があると思います。</p>	<p>地域のコミュニティの核となる施設としては地域生涯学習センターや地区センター等がありますが、今回の学校再編ではこれらの施設のあり方も含めた再編を検討していきます。新しく整備する学校に地域施設を複合化することも検討していきます。また、学校跡地の取り扱いについても地域に大きな影響があると思われるので、廃校になる学校の跡地の扱いについては地域の意見を伺いながら検討を進めていきます。</p>	C

No.	ページ	項目	意見	市の考え	対応区分
23	11-12	3(3)施設のあり方	遊びの空間だけでなく、放課後、休み時間などの時間や遊びの仲間づくりも重要です。 是非是非地域ボランティアの自由に入出入りできるコミュニティスクールの充実も必須とおもいます。	掛川市では、中学校区学園化構想を推進し、園・学校と地域との連携強化を進めてきました。再編によって学校施設を整備する際には、学校と地域の協働活動がより行いやすい施設として整備することも重要と考えています。	C
24	11-12	3(3)施設のあり方	個人的にはわかりやすい資料でよかったです。自分は中央小学区なのでイメージがわからなかったのですが、校舎は小学低学年と中学では大きい歳の差があるので、治安等も考え分離型希望です。	一体型にする場合も学年ごとの動線や使用スペースを検討してある程度の区分けを行う予定ですが、先進校のお話を伺うと、中学生は小学生と一緒に生活することで、低学年の子どもに危険が及ばないように注意をして生活をするようになるという聞いており、大人が思う以上に上級生として配慮した生活をするようになるということです。教育委員会としては一貫教育の行いやすい一体型や分離型の施設が望ましいと考えていますが、施設の形態も含めて今後地域の皆さんと協議をしていきます。	B
25	11-12	3(3)施設のあり方	近年の教育施設を見渡すと、デザイン性とかファッショ性が富み、建設費も高額傾向にあると感じます。将来の財政が気になりますので、安全性は十分に気使わなければならないが、シンプルに高額にならない努力は大きな視点だと思います。1校、2校の話ではない事を考えると、掛川市としての持続可能な計画を望みます。	公共施設マネジメント的な視点にも考慮し、整備費が高額にならないように努めてまいります。	B
26	13	4(1)園小中一貫教育の推進	全体では、未来の入学人数が、しめされず、学園なのは、よくわからない。 基準は、はっきり示してほしい。学園基準は、なんですか？ 再編の必要性が、わからない。小学校統合では、なく、中学校区で、考えるのは、なぜか？ 学園にするには、どんなビジョンを描いていますか？ 義務教育学園なのか、小中一貫校なのか、わからない。未来を見据えての再編だから、未来を明示してほしい。	学園の基準は、現在の中学校区単位を基本としています。掛川市では小中一貫教育を推進していることから、今後の学校づくりについては一貫教育が行いやすい一体型や隣接型の学校にしていきたいと考えています。学園ごとの人数の基準を設けているわけではありません。再編の枠組みが現在の中学校区で決定ということではなく、今後、中学校区単位の地域との話し合いの中で、学区の再編についても協議をしていく予定です。再編後の一体校については、義務教育学校ではなく、一貫型の小学校・中学校にしていきたいと考えています。	C
27	13	4(1)園小中一貫教育の推進	同様に「地域との連携」「学校と地域との連携・協働」とありますが、暮らしの場から離れた所に設置される学校とない地域との連携協働は具体的にどんなことを考え、「地域との連携」「学校と地域との連携・協働」と記載しているのか現時点で教育委員会としてあげていることを知りたい。	掛川市内には、学区が複数の地区で構成されている小学校区が7校あります。それらの小学校については、小学校がある地区だけの学校という認識ではなく、小学校区内の地区の学校として多くの皆さんに学校を支援していただいています。住民の皆さんによる登下校の見守りや、授業支援、学校の環境整備、また、子どもたちの地域の活動への積極的な参加などは、学校と地域との連携・協働による教育活動として誇るべきものです。市では学校の再編後もこうした地域との関係を大切にしていきたいと考えています。	E

No.	ページ	項目	意見	市の考え	対応区分
28	13-14	4(3)多様な教育活動ができる集団規模の確保	少子化だが、少ない人数の学校は少ない人数で良い事もたくさんあると思います。	少人数の学級には少人数の良さが、大人数の学級(現行では最大35人/学級)には大人数の良さがある反面、それぞれに課題点もあります。子どもたちが他者と関わる力を身に付けていくためには協働的な学びが重要であり、そのためには一定の集団規模の中で学校生活をおくる必要がありますと考えています。少人数、とりわけ1学級の人数が10人程度になり、複式学級の発生も危惧されるような学校については、統合して課題を解消する必要があると考えています。	C
29	13-14 14	4(3)多様な教育活動ができる集団規模の確保 4(4)安全・安心な教育施設の整備	再編案に賛成です。現在、子供の数が減少しており、佐束小でも、これからの入学児童は毎年15人前後になっていくようです。教室での授業だけを考えたらそれくらいの人数でも良いのかもしれませんが、子供が社会性を身につけることや、学校全体で行う教育活動などを考えると、複数学級あることの方がメリットは大きいと考えます。また、学校施設の老朽化も顕著であり、子供たちに安全で過ごしやすい環境を準備するためにも、新しい一貫校を建てることはとても良いと思います。	少子化と学校施設の老朽化は、現在と、今後の小中学校における深刻な課題であると考えています。望ましい教育環境を整えるために、地域の理解を得ながら、速やかに再編を進めていきます。	C
30	13-14	4(3)多様な教育活動ができる集団規模の確保	「協働的な学びを充実させるためには…〇一部同感です。しかし ▲子どもたちは子どもたちなりに、今の社会の中で与えられた環境の中で学び、成長しています。このことをまず私たち大人がきちんととらえることが必要です。事実、日坂小では、少人数・単学級の学校ながら、学校・PTAや地域がよく連携を取り、様々な教育活動が展開されています。昨年度は、各学年の発達段階に応じ、工夫された活動が行われました。(昔の遊び伝承体験、地域防災の在り方を考える、茶の里散歩・旧東海道を自作のわらじで歩く等)いずれも子どもたちが主体的に取り組む工夫を随所に感じました。そして、また、GIGAスクール構想の一環か、デジタルの技術をふんだんに取り入れた作品展も見られました。(例:歴史的な地域を画像に収め、児童自らの想いをレイアウトした作品展)	掛川市では、多くの市民の皆さんに園や小中学校の教育に関わっていただき、教職員だけではできない豊かな学びが展開できていることに感謝申し上げます。子どもたちが与えられた環境の中で学び、成長するからこそ、周囲の大人がその環境をいかに整えるのかについて考え、実際に整えていく必要があると考えています。	D
31	13-14	4(3)多様な教育活動ができる集団規模の確保	とても大切なことだと考えます。しかし発達段階に応じたそれぞれの教育を推進するために、集団が大きくなり、一人ひとりに目が届きにくくなるのでは、本末転倒です。いじめ問題、発達障害の子どもへの対応など以前に比べ、大きく問題になっています。個別に対応することが求められています。国の方針もあると思いますが、クラスの人数を適切にし、正採用の教師を増やす根本的なことを求めていかないとたいへんだと思います。	学級の定員、教職員の配置の基準は国の法律、県の基準で定められており、市がこれを単独で変更することは非常に困難ですが、再編をして学校内の教職員数が増えることで、校務分掌等の負担を軽減して、教員が授業準備や学級経営に注力しやすい環境をつくることができると考えています。	B

No.	ページ	項目	意見	市の考え	対応区分
32	14	4(4)安全・安心な教育施設の整備	大須賀中学区での再編についての意見です。第Ⅲ期となっていますが、もっと時期を早めるか、学区内の小学校の施設の大幅な整備をする必要があると思います。学区再編時に校舎を建て替えるため、雨漏り(図書館や図工作品を掲示する場所もしています)や中が丸見えの男子トイレ、タイル式で古い、掃除がしにくい設計の、今時の子どもが使いつらいにも関わらずほとんどが和式のトイレ、移動教室に不便な南北の連絡通路、運動場から入りづらい保健室などなどにも耐えるしかないものと耐えていましたが、第Ⅲ期に再編ということは、少なくとも後20年はあの校舎を使うということだと思います。あの校舎は、子どもが明るい気持ちで学校に来たいと思う一助にはなり得ません。子どもや教員が日々不便さを感じるのは最もだと思います。再編時期を前倒しにするか、トイレや雨漏りなど、できるところは大幅な整備を進める必要があると思います。	市内の小中学校の大部分の校舎は築40年以上経過しており、どこかの学校の校舎についても様々な課題を抱えている状況です。そのような中で、再編に着手する順番については、老朽化や児童・生徒数の増減の状況等を総合的に比較検討した上で、今回お示したような順番となっています。再編の着手が後ろの学校については、一切の改修を行わないということではなく、今後使用が予定される年数に応じて長寿命化工事や改修工事を行って、安全性や機能性の確保を図っていくことを計画内に記載します。	A
	18	6(3)学校再編の検討に着手する順番			
33	14	4(4)安全・安心な教育施設の整備	再編が進み新校舎に変わる学校がある一方で、大変老朽化し1年生のトイレに和式しかなく、また1.2.3年生の男子トイレが外から丸見えである横須賀小、雨漏りしたり、職員トイレが臭く暖房便座化されていない大淵小などが、第3期と聞き、あと少なくとも20年、最大30年このままかと怒りをおぼえます。まずは改修が先なのは、ぜひ、子どもたちや職員が置かれている現状、ありのままの姿を見に来ていただきたいです。	市内の小中学校の大部分の校舎は築40年以上経過して施設の老朽化が課題となっています。特に築60年を経過した施設については建替えを検討しなくてはならない時期にきており、今後は建替えをしていく施設と、長寿命化や大規模改修工事により安全性と快適性を確保しながら使用期間を延ばしていく施設とに区別けしながら維持管理を行っていく必要があります。再編の着手の順番が後ろの学校については、一切の改修を行わないということではなく、今後使用が予定される年数に応じて長寿命化工事や改修工事を行って、安全性や機能性の確保を図っていくことを計画内に記載します。	A
	18	6(3)学校再編の検討に着手する順番			
34	14	4(4)安全・安心な教育施設の整備	生き抜く力を育む校庭に。～理学療法士と医師が考える、丈夫な体と心を育てる庭づくり～ 今子どもの体力の低下や社会性の低下に歯止めがかからず、骨折率の増加、スポーツ障害の増加や不登校や自殺も大きな社会問題となっている。 子どもたちの体は多彩な動きを通して、年齢に応じた発達段階を踏むことで強い土台ができ、怪我をしにくく、技術の獲得もしやすくなる。また、その動きを遊びに組み込むことで、子どもたちが主体的に、繰り返し、工夫や失敗や発展を楽しみながら動きを習得できる。また異年齢の遊びを通して子どもだけの小さな社会ができ、失敗や衝突も体験しながら、強い心が育つ。 そのような多彩な運動を含み、また小、中学一貫となってもどの年代でも楽しむことのできる遊びが発生するような環境設定を、専門知識を持った理学療法士や医師がデザインしたい。遊具の選択やグラウンドのデザイン、建物や自然との融合を理学療法士や整形外科、小児科医がアイデアを出し合うチームを市で作ってはどうか？	御意見のとおりグラウンドについても学校施設の一部であり、子どもたちの成長にとって非常に重要な施設であると考えています。単に一定のスペースを確保するというだけでなく、様々な教育活動や遊びができる施設を整備して、子どもたちの成長を促すための施設にしていく必要があります。また、小中の一体校となった場合には、グラウンドも小中学生で共用しますので、安全を確保するための区分けやルール作りが必要となります。 グラウンドを含めて、住民の皆さん(専門的な知識をお持ちの方も含めて)や児童・生徒、学校の教職員の御意見を反映した学校づくりを進めていきます。	B

No.	ページ	項目	意見	市の考え	対応区分
35	14	4(4)安全・安心な教育施設の整備	「統合によって教育環境の改善」とありますが、東山口小学校の「土砂災害特別警戒2点」は、具体的にどのように改善されるのか。どのような計画で進められるのか	各学園固有の課題については、別途協議を行っていきます。	B
36	14	4(5)地域とともにある学校の推進	「地域の教育力」「地域の教育の拠点」とありますが、学校が設置されている場所の地域が優先されるのではないのでしょうか。小学校が、児童の暮らしの場所とは離れてしまうと「地域の教育力」「地域の教育の拠点」としての役割は、なくなってしまうのではないかと。	地域の教育力を園や学校教育の中で生かすという点では、中学校区学園化構想のもとで地区の枠組みを超えて広く御支援をいただいています。再編後も同様に御支援いただければと考えています。地域の教育の拠点については、地域活動の拠点をどこに整備していくのか、そこでどのような活動を展開していくのかについて学校再編にあわせて地域と協議・検討を進めていきます。	B
37	14	4(5)地域とともにある学校の推進	倉真小に限らず、地域の小学校・中学校を廃校にして、なくしてしまうことに反対します。子供と学校は地域の住民にとって、太陽であり、生きがいの1つであります。生徒が自然減少することは、ある面では自然で、仕方のないことかもしれません。しかし、掛川市は地域特に倉真地区に人口を増やす努力を行ったのでしょうか。はなはだ・です。掛川の中心部に近いところでは、かなりの新築の家をここ数年のうちにみられます。進行形です。しかし倉真地区には、年に1軒の新築をみるくらいのもので、地区外に人口が流出しています。近年、人口が減る一方です。このままでは、統廃合の形が当然との考えもあります。しかし、何とか人口を増やし、生徒を増やすことはできないのでしょうか。「パブコメ用プリント P14」には、全国には小規模校の良さを生かして、豊かな教育を実践している学校もありますが、本市においては…とあります。内容を(豊かな教育の内容を)知りたいところです。又、P13には、「地域とともにある学校の推進」が基本方針の1つにあります。中身がわかりません。「地域」というのは、小学校単位でないと、生かされないと思います。マンモス校では、地域の本当の姿は見えないと思います。地域に小学校を残し発展させる努力をお願いします。	地域とともにある学校とは、学校と地域が育てたい子ども像を共有し、それに向かって連携・協働して子どもたちを育てていく学校と地域のことを言います。掛川市では、平成25年度から中学校区学園化構想のもと、地域とともにある学校づくりを進めています。掛川市が進めようとしている学校再編では、これまで培ってきた学校と地域の繋がりを維持していくことが大切だと考えていますが、1つの地区に学校が1つなければならないとは考えていません。市内には既に複数の地区で1つの小学校を支援していただいている学区もあります。市内には1学年の子どもの人数が10人未満の学校もあり、望ましい教育環境とは言えない状況になっています。このような状況を御理解いただいた上で、地域の子どもたちの教育環境がどうあるべきかを住民の皆さんと考え今後の方向性を決定していきます。	B
38	14	4(5)地域とともにある学校の推進	事実、この日坂地域においても、定住人口は減少の一途ですが、茶の里日坂、歴史ある旧東海道日坂宿を地区外から来訪する人は年々増えています。また、国内に限らず海外からも多くの来訪者がコロナ後復活しています。また、最近、地区外から移住し、店を開いたり、古民家宿を復活させたりする人たちも増えています。この地域を内外から発信する環境は、時代の変化と共に充実してきています。この地域で、豊かな笑顔と誇りを持ち暮らした子どもたちが、やがてまたこの地への大きな力となることでしょう。地域に学校を。教育は未来への投資です。	学校が地区外に移ったとしても、そこに住む子どもたちが地域の子どもたちであることに変わりありません。引き続き子どもたちが健やかに成長できるように地域の皆さんの御支援をお願いします。	B

No.	ページ	項目	意見	市の考え	対応区分
39	14	4(5)地域とともにある学校の推進	<p>大項目5の学校再編を進める際の留意事項に、(9)として次の項目(文末「」内)を加える。</p> <p>理由は、学校再編により、小学校がなくなる(遠くなる)地域が生まれるからで、通学しやすい場所に子育て世代が居住する傾向は避けられず、地域により住民の年代に差が出てくる。高齢者の割合が多い地域は防災や草刈り等自治会活動に支障をきたすことが予想され、将来的に地域の維持そのものが困難になってくる。</p> <p>こうした不公平を少しでも解消し、里山を荒らさず獣害などから環境を守るため、若い世代はなるべく市内全域に分散して住んでもらう方がよい。自然豊かな地域の子育てが情操を育むのは言うに及ばず、誰一人取り残さないという市の方針にも合致する。</p> <p>よって「学校のなくなる地域に住む子育て世帯へ、子ども手当の増額や住宅建築補助など、手厚い支援を行い、フェアな学校再編を進める。」を(9)として加える。</p>	<p>令和2年と令和4年に保護者向けに行ったアンケート調査(理想の学校アンケート)では、多くの保護者がスクールバスで子どもを通わせてもよいと考えており、身近に学校があることよりも望ましい教育環境の学校に通わせることを重視している表れであると考えています。保護者が子どもたちを安心して通わせられる教育環境こそがまちづくりにとっても必要ではないかと思います。</p> <p>少子化の問題は市内全域の課題であり、特定の地域のみ手当を増加することは適切ではないと考えますので、御提案のような内容を加えることはいたしません。</p>	D
40	14	4(5)地域とともにある学校の推進	<p>学校再編により、教育環境が整い、教育の質が上がるのが期待されるので、反対ではありません。</p> <p>しかしながら、地域から学校がなくなると、子育て世代の流出は免れず、通学校の近くに引っ越しをされる家庭もあると思います。</p> <p>少子高齢化がすすみ、地域コミュニティ活力の減退が予想されます。</p> <p>現在、小学児童をもつ家庭だけでなく、出産後、または出産を考えているご夫婦・家の購入を考えているご夫婦に、自分の子どもがどこの学校にどのようにして通うかという未来のことも考えていただきたいと思います。賃貸住宅なら身軽ですが、土地や家屋の購入となると、安易ではありませんので。</p> <p>長期的に子どもの未来を考える相談窓口(一元化窓口)があると嬉しいです。</p> <p>住宅を建てたくても建てられない土地、耕作放棄地が多く、ここを住宅にできたならと歯がゆく思うこともあります。</p> <p>農地転用のハードルを下げてください、または空き家の改修費用補助などの措置があれば、学校がない地域にも、まだ人が入ってくる希望がみえます。</p> <p>もう一つ、心配なのは、地域部活です。</p> <p>中学での部活動は廃止、地域部活に移行することですが、通学圏内に入りたい地域部活がない場合は、より遠方まで通うことになり、そこまでの送迎者確保や交通費負担がのしかかります。</p> <p>地域に再編により残った建物があるのなら、その一部を提供いただき、地域部活活動拠点とするなども良いかと思います。</p> <p>学校再編において、教育環境・質を公平にするのであれば、地域部活も公平に提供できることが望ましいと考えます。</p> <p>学校再編で公平になることもある反面、放課後の過ごし方に格差がでてしまうのでは、なんのための計画なのかわからなくなってしまいます。</p> <p>地域住民、それをとりまくコミュニティ、そして若い世代にも、是非自分事として考えていただきたいことです。</p>	<p>農地転用の基準は農地法という法律に基づいており、掛川市が独自に変えられるものではないことを御理解ください。市では現在、空き家の利活用に向けた施策を検討しています。</p> <p>部活動については、既に小規模校において選択できる部活動の種目が少なくなっており、不均衡が生じている状況です。今後、生徒と教員数の減少によりこの傾向はより顕著になると考えられることが、今回の部活動改革に取り組む一因となっています。中学生が様々なスポーツや文化活動に取り組める環境を目指して部活動改革を進めていきます。</p>	D

No.	ページ	項目	意見	市の考え	対応区分
41	14	4(5)地域とともにある学校の推進	<p>私は、掛川市倉真の豊かな自然と地域の皆さんの温かさに惹かれて、この地域で子育てをしたいという願いを持って4年前に他市から移住してきました。</p> <p>8歳、6歳、4歳、1歳の子どもがおり、上の二人は倉真小学校に通っています。</p> <p>小規模校に通学して良かったと感じる点は、様々ありますが、中でも特に素敵だなと思うのは、子どもも親も、先生そして地域の人々も、全校生徒の名前や顔が分かるという点です。休み時間や放課後には色々な学年が交じって鬼ごっこやドッチボールをして遊んだり、異なる学年の子ども同士が関わる機会がとて多いため、横の繋がりだけでなく、縦の繋がりの中で広がっていく人間関係の奥深さを感じます。</p> <p>全校生徒の人数が少ないことで、自然と自分より年下の子達を気遣ったり、年上の子達の姿を間近で見る機会が増え、良い刺激やお手本になっていると感じています。</p> <p>また、地域の人の協力のもと、倉真ならではの学習ができることも素晴らしい点だと感じています。倉真温泉に入らせてもらったり、地域の方と一緒にサツマイモのつるさしをしたり、ジャンボ門松を作ったり…など、大きい学校では難しいことが、児童数が少ないことで実現できたり、丁寧に指導していただけたりすることがたくさんあると感じています。</p> <p>倉真に住む人々の、この地域を誇りに思う気持ちが、地域の懐の大きさと美しい景観を作っていると感じていますが、その倉真を思う気持ちや一体感は、倉真小学校という存在があることで育まれてきた部分も大きいのではないかと思います。そのため、倉真小学校が無くなるということは、この倉真地域の在り方も、長い目でみると大きく変わってしまうのではないかと危惧しています。</p> <p>豊かな子ども時代を送ることで、大人になってから故郷に帰りたい、貢献したいという気持ちが芽生えることに繋がり、掛川市の未来にもプラスに働くのではないかと思います。そのためには、規模の大きい学校を作り、画一的な教育をするよりは、小規模校の良さを活かし、個性的な教育をしていくことが、これからの多様性の時代を先取る、未来の教育のカたちだと、私は感じています。</p> <p>一度無くしてしまった学校は蘇りません。今ある宝を、どうやって活かしていくかをみんなで考えていけたらと、思っています。</p>	<p>掛川市では中学校区学園化構想のもと、園や学校と地域が連携・協働しながら子どもを育てていくことを推進していて、各中学校区ごとに様々な活動が展開されています。</p> <p>小規模校には小規模校ならではの良さがある一方で課題もあります。少子化が一層進展して子どもの数が減少していく中で、子どもたちに望ましい教育環境とはどのような環境なのか、今後、地域の皆さんと一緒に検討していきます。</p>	B
42	15	5(1)学区編成の考え方について	<p>中学校に関しては、部活動についてもフレキシブルに対応いただいているのを鑑みますと、無理のない範囲で他学区への進学も可能にしてもらえるとありがたいです。</p>	<p>今後も少子化が進むことが想定されますので、郊外部にある学校については、通学区を弾力化して学区外から子どもを受け入れていく必要があると考えています。その旨を計画の中に追記させていただきました。</p>	A
43	15	5(1)学区編成の考え方について	<p>人数の調整で通う小学校を変える学区ができれば、同じく祭典の地区も考慮してほしいです。</p>	<p>学区を再編する場合には、原則として現在の地区単位を最小の単位として調整を行っていきたくと考えています。祭典をはじめとした地域のつながりや現在の地区の枠組みに配慮した再編を進めていきます。</p>	B

No.	ページ	項目	意見	市の考え	対応区分
44	15	5(1)学区編成の考え方について	<p>小中一貫校に対して意見はありませんが少子化が進む中、原野谷学園にこだわる必要はないと考えます。</p> <p>学区の再編が必要です。</p> <p>教育委員会は、原野谷中に、小中一貫校を考えていますが、噂では体育館が新しいから現在地を希望しているようですが反対です。</p> <p>原谷小現在地が良いと考えます。</p> <p>理由は</p> <p>原谷地区、原田地区がさびれて少子化が加速します。</p> <p>3年後には運動クラブ、文化クラブが学校から切り離されますよって大きな運動場は必要無くなります。</p> <p>原野谷中現在地は、55年以上経ってもさびれるだけで、将来も希望がありません。</p> <p>原谷地区、原田地区が将来も希望をもつためには原谷小跡地が最適です。</p> <p>過疎化の進行を遅らせる唯一の対策です。</p> <p>和田岡地区の方も賛同してくれる可能性があります。</p>	<p>学区や、学校の設置位置については、本計画策定後に原野谷中学校区における地域との協議の中で検討、決定していきます。</p> <p>学区を変更する場合には、相手方となる地域の意向も確認した上で、変更するかしないかを検討していきます。</p>	B
		5(3)学校の設置位置について	<p>園小中一貫教育を含めた学園化構想を基盤にした学校再編や地域とともにある学校づくりについて共感します。学校再編の基本方針についても賛同します。再編については学園を基本とする趣旨はよくわかりますが、学区の変更を考えなくてはいけない学園もあるように思います。特に駅周辺の市の中心部、または、数十年後には学園単位でも小規模になるような地区を含めどのように再編するかが課題であるように思います。学園によって再編着手の時期が異なりますが、学区の一部変更が想定される地区で学園が異なり、時期の異なる場合はどうなるのか？と思いました。</p>		
46	15	5(2)統廃合について	<p>統合を来年度からお願いしたいです。</p> <p>遅くとも複式学級が始まる前に絶対統合してもらわないと困ります。</p> <p>5人や6人など班なみのクラス人数で6年間過ごすことを思うとこれからの子供の将来が不安でたまりません。</p> <p>もしできないなら学区外の学校に通う選択肢を設けて頂きたいです。</p>	<p>統合については、学校再編計画の策定後に速やかに地域との協議をスタートさせることとしています。極端な少人数学級や複式学級では教育の質の低下が懸念されますので、そうした実情を地域にも御理解をいただき、事前に統合する学校の子どもたちが十分な交流する機会を設けた上で統合を進めていきたいと考えています。</p> <p>複式学級を理由として通学区域の指定の例外を認めることは現段階では考えていません。</p>	C
	18	6(4)小学校の統合			

No.	ページ	項目	意見	市の考え	対応区分
47	15	5(2)統廃合について	<p>全校児童数をもとに再編を進めるとの計画ですが、その程度の再編ではなく、抜本的に見直す必要があると考えます。</p> <p>現状の学校現場はどれも人手不足です。学校の学級数に応じて人員が配置されていますが、単学級が多く、4月に担任不在であったり、教務主任や生徒指導主任が兼務する学校があると聞きます。どの学年も3学級以上であれば、小学校高学年で実施が推奨されている教科担任制が組みやすく、クラス編成による人間関係の固定化回避がしやすいでしょう。担任の持ち時数が是正され、働き方改革へとつながります。教科担任制ができれば、持ち時数が減り、授業の準備(教材研究)の時間が増し、そして検討した授業を複数回実践することで教員の授業力アップも期待できます。学校にある多くの分掌について、職員が15名以下でも50名以上でも数は同じです。学年ごとの学級数がふえ、一つの学校に在籍する教職員数が増えるとメリットが何倍にもなります。</p> <p>担任が1人でも出張・病欠・休暇取得などで不在になると安定した学校運営ができない現状をご理解いただき、即時的に行うこと、学校の統合や新設に向けた議論、行政にはどちらも考えていただかないと、数年以内に学校が破綻するのではないかと危惧しています。</p>	<p>現在、市内の小学校22校のうち11校が1年から6年まですべての学年が単学級の学校となっています。単学級校については、教育の面からも学校運営の面からも課題が多いと認識しています。再編に着手する要因の一つが学校の小規模化の進展です。</p> <p>しかしながら、施設の整備を伴う再編を短期間ですべての学校で実施することが困難なため、児童・生徒数の減少が著しい学校については、再編を待たずに統合について地域との協議をスタートしていきたいと考えています。子どもたちにとっても、そこで働く教職員の皆さんにとっても学びやすい、働きやすい環境になるように進めてまいりますので、御理解と御協力をいただきますようお願いいたします。</p>	B
48	15	5(2)統廃合について	<p>「教育環境の悪化」「複式学級の発生が危惧」と書かれると保護者は不安になります。入学児に小学校ではこんなたいへんなことがあるから気をつけることばかりを伝えるとおなじことになるように思います。</p> <p>また「学校再編評価表」にも「複式学級の恐れ」と「土砂災害恐れ」「氾濫恐れ」が使用されています。自然災害の恐れは理解できますが複式学級は誰にとっての「恐れ」でしょうか。</p>	<p>2学年の子どもたちが1つの教室で1人の教員から授業を受ける複式学級は、そこで学ぶ子どもたちにとっても、教える教員にとっても望ましい環境とは言えません。学校全体としても6学級から5学級に減少することで教員の定数が2人削減されるため、その学校の他の教職員の負担も大きくなることから、複式学級が発生する恐れのある学校については、速やかに解消を図ることが望ましいと考えています。</p>	E
49	15	5(2)統廃合について	<p>「児童数が100人に満たない小規模な小学校の統合・・・特に複式学級の発生が危惧される学校・・・速やかに検討スタート」とあり、本地区の日坂小は該当します。今後、学校関係者や保護者のほか地域の役員も加わり話し合いがされる中で、様々な要素を、対象に丁寧な進め方が必要に思います。</p> <p>例えば、そもそも、小規模、複式学級が教育学的な要件等で子どもにとって本当に不利になるのか、過去、複式授業を経験した原泉地区の子どもが学力面で劣ったのか、大人となった現在、どのような社会人となったのか？知りたいものです。また、学校がなくなった原泉地区の人口動向、若い人がどの程度残っているのかも気になることです。ちなみに原泉の消防団員は、地区居住者がわずかとこのことで、地域の防災面でも不安を覚える点です。そのほか、前項で触れた、全国の中で小規模校の良さを実践している事例なども情報提供していただき、話し合いの中で参考とすべきかと思います。</p>	<p>少子化や人口減少は学校がなくなるから進むのではなく、学校がある間も進んでいることに留意をする必要があると思います。近年の少子化の動向はこれまでになく急激なものであり、社会全体で対応を検討することが急務となっています。学校の再編・統合もその一つと考えます。</p> <p>学級の小規模化については、メリットもある反面、デメリットの部分も大きく、学校現場ではそのデメリットを小さくするために教職員が創意工夫をした学校運営、学級運営を行っています。</p> <p>そうした点も御理解いただいた上で、地域の教育環境がどうあるべきかを住民の皆さんと一緒に考えながら方向性を見出していきたいと考えています。</p>	B

No.	ページ	項目	意見	市の考え	対応区分
50	15	5(2)統廃合について	<p>×「複式学級が危惧される」…前ページでも述べた様に、「危惧」や「恐れ」(21Pの学校再編評価票の項目)等の文字を安易に案文の中に記載することは不適切。</p> <p>むしろ、行政側に求められていることは、掛川市が制度を柔軟に、弾力的に運用できる対応力ではないかと思えます。</p> <p>また、複式学級になった時の学校の教員配置の減員を避ける方策を協議したり、加配教員を要請することも、独自に教職員を任用することもできるはずですが。そうやって学校を維持・充実することのほうが、よほど、子どもたちや地域のためになるのではないのでしょうか。それを、いかにも国や都道府県で基準が決められていて、複式学級は避けられないと不安を抱かせるような表記は避けるべきです。</p> <p>地域に輝く学校、子どもたち一人ひとりが大切にされる学校、少人数でも豊かな教育が保証される学校の具体化こそ謳われる条文でありたいと思えます。</p>	<p>掛川市としては、複式学級は解消すべきと考えています。教員を増員して対応する方法については、県の基準を超えて教員を配置することが難しいこと、現状では産育休や傷病により長期休暇中の教員の補充すらままならない状況の中で、市が単費で定員外の教員を雇用することが非常に困難なこと、仮に通常学級になったとしても1学級の子ども的人数が数人という状況ではやはり課題が大きいことから、複式学級解消は隣接校との統合が最も望ましいと考えます。</p>	D
51	15	5(2)統廃合について	<p>一番心配しているのは、地域から学校がなくなることです。小規模校には、小規模校なりのよさがたくさんあります。地域から学校がなくなることで、地域住民が子どもたちに関わり、見守ることが希薄になります。ただでさえ、地域とのつながりが希薄になっている中で、地域で子どもたちを育てていくことが遠のいていくような気がします。地域と共にある学校の推進と、統廃合により、小規模校を減らしていくことは、矛盾があると思えます。</p>	<p>少人数の学級には少人数の良さが、大人数の学級(現行では最大35人/学級)には大人数の良さがある反面、それぞれに課題点もあります。小規模校の課題を解消するためにも学校の再編は必要だと考えています。</p> <p>掛川市では、平成25年度から中学校区学園化構想を実施しており、小学校区を超えて中学校区の中の園・学校の教育活動を支援いただくことが増えてきました。本市においては地区の中にある学校しか支援の対象としないという意識ではなくなってきていると感じています。</p>	D
52	15	5(3)学校の設置位置について	<p>子供を保育園にお願いしていますが、中学校区域外しかあいておらず、仕方なくお願いせざるを得ない。市職員からは、旧掛川市在住にも関わらず、大東町の保育園が空いているという始末。</p> <p>幼児期から中学校まで確実に同じ地域で希望がなくても、通える仕組み作りは個人的に経験したところからも必要と思えます。人口動態の変動や世帯構成の変容、地域作りといった視点、福祉における地域包括ケアシステムの体制づくりも進み、教育についても進めて頂きたい。</p>	<p>学校の再編にあたっては、学校用地として広大な土地を新たに確保することが難しいため、既存の学校用地を候補地として考えて検討を進めています。</p> <p>既存の校地を活用する場合には、グラウンドを活用する等の方法により授業を行いながら工事を進めていく方法を検討しています。</p> <p>跡地の取り扱いについては、地域の御意見も伺いながら検討をしていきます。</p>	C
20	7学校再編後の学校施設	<p>課題</p> <p>1.土地の確保について。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の土地を利用する場合、重なる時期の教育体制、騒音対策 ・新たな土地の取得 評価価値、既存の学校跡地の活用方法 			

No.	ページ	項目	意見	市の考え	対応区分
53	15	5(3)学校の設置位置について	<p>青葉台、紅葉台、杉谷地区等駅南には多くの小学生がいますが、小学校がない状況にあります。そこで、駅南に新たに学校を新設していただきたいです。児童の数の他に理由として、通学距離の長さが挙げられます。現行もそうですが、案の中で例えば小学校は片道4キロを越えると通学補助としてバスの利用があるとありますが、先に挙げた青葉台地区などについては、この基準にギリギリ達せず、結果として4キロ弱の距離を歩いて登校しています。なので、朝の7時前から登校している児童も多数見かけられます。冬季の7時前となるとまだ日が昇っておらず、暗い中歩くこととなり危険です。また、距離の面からしても、高学年はまだ良いとしても、保育園、幼稚園からあがってきたばかりの子達が4キロ弱歩くのは体力的にも辛いと思われます。さらに、下校に関して、低学年の子達で固まって帰れば良いのですが、場合によっては地区にその子しかいない場合もあり、単独での下校も考えられ、不審者が出た場合等について対応が遅れてしまう恐れ等も考えられます。</p> <p>以上より、再度の提案となりますが、駅南に小学校を新たに新設いただきたいです。</p> <p>もし、学校新設が難しいようであれば、せめてスクールバスの規定距離を緩和(例えば、2キロ超を対象)し、通学距離を短くすることについてご検討いただきたいです。</p>	<p>駅南地域に学校を新設して欲しいという要望は以前より地域からいただいております。今後、東中学校区における地域との協議の中で検討すべき課題であると考えています。</p> <p>掛川市は市域が広く、居住区域が分散していることから、学校までの距離が遠く、遠距離の通学をしている子どもが比較的多いです。子どもたちの通学の負担を軽減することができればとの思いはありますが、通学支援の対象を2km以上にした場合には、対象となる児童が増加し、その費用負担はかなり大きなものになると思われます。どの位の距離が適切なのか、今後学校の再編にあわせて検討していきます。</p>	B

No.	ページ	項目	意見	市の考え	対応区分
54	15	5(3)学校の設置位置について	<p>原野谷学園化構想の小中一貫教育は、原谷小、原田小学校だけではなく、和田岡小学校も入れて考えるべきであり、合わせて校舎新設場所は、原田地区、原谷地区、和田岡地区の中間地点である本郷周辺に建設すべきであると考えます。まず和田岡小学校を入れる理由は、入れても将来的に児童数が保たれるのかという疑問はありますが、就学前の子どもに幼児教育・保育を提供する認定こども園「こども広場あんり」が、公立の原田幼稚園・和田岡幼稚園及び本郷保育園と美登里幼稚園を統合して、既に原谷地区に建設され運営されている事です。</p> <p>次に新設する校舎の建設場所ですが、原野谷中学校校舎の老朽化に伴い建て替えを急いでいる事や既に建設されている体育館が比較的新しいこと、及び掛川市の小中一貫教育の第一歩としたいことから推し進める原田地区での建て替えでは、原谷地区の街づくりの観点や「こども広場あんり」が建設されている事、及び原泉地区や原田地区の方たちが原谷地区に家を建てるという現象を考慮するとき、原谷地区の住民は理解出来ない事だと思えます。</p> <p>学校は地域の象徴であり街づくりの基本となるものです。今後、この地域だけでなく全体的に人口減少が進んでいく中で、いかにその人口減少を鈍化させていくことができるのか、その施策が求められていると思えます。この原谷地区は、そのような施策の対象からはほど遠く、スーパーや住宅団地、また工業団地などの予定もない中で、唯一「物が出来ることによる活性化」を考えると、鍵となるのは「学校」の存在又は建設であると考えます。</p> <p>このことから和田岡地区との協議を充分進めていただき、和田岡小が原野谷学園化に入らないのであれば、原田小学校を原谷小学校へ統合し、老朽化に伴い建て替えを急いでいる原野谷中学校のみ新設することを望みます。</p>	<p>原野谷中学校区の統合・再編については、今後地域住民の皆さんと協議・検討を進めていきます。</p>	B

No.	ページ	項目	意見	市の考え	対応区分
55	15	5(3)学校の設置位置について	<p>小・中学校の再編計画について、賛成いたします。現在住所のある学区ですと、第一小学校は特に校舎の老朽化が著しいと思われますので、子どもたちのためにも早めに校舎を新しくしていただけると嬉しいです。</p> <p>さらに計画に加えていただきたい点としましては、駅南地区に学校がないので、学校再編の際には駅南地区に学校の移設をお願いしたいです。駅南地区は新しい住宅地が多くあり、それに伴って子どもの人数も多いです。たくさん子どもたちが、遠くの学校まで毎日登下校をする状況にあるので、安全面からも駅南地区に学校を設けていただきたいと考えます。(特に小学校低学年など幼い子どもには、長い道のりは心配です。)</p> <p>具体的な案としましては、掛川病院跡に特別支援学校がありますが、その傍に小中学校を設けてはいかがでしょうか。支援学校の児童・生徒、小中学校の児童・生徒ともに良い相互作用が生まれると思います。小さな頃から近くの敷地に様々な子どもたちが生活することで、自然と障がいに対する理解や考えが深まり、ノーマライゼーションの実現に近づくことができるのではないのでしょうか。</p> <p>安全な環境のなかで、いろいろな個性や価値観を持った児童・生徒たちが、お互いを認め合い、お互いを補い合う風潮が生まれたら素敵と思い、意見として述べさせていただきました。 ご覧いただき、ありがとうございました。</p>	<p>駅南地域に学校を新設して欲しいという要望は以前より地域からいただいております。今後、東中学校区における地域との協議の中で検討すべき課題であると考えています。</p>	B
56	15	5(4)通学の負担軽減と安全確保について	<p>子供の人数が少なくなっている学区もあるのでそういう学区では統合するのもありだと思う しかし統合した事により通学距離が長くなる等問題が出てくる所もあると思うのでその辺も考えてから決めて欲しい</p>	<p>再編や統合を進めることで学校までの距離が遠くなり、通学の負担が増加することと安全面での不安が発生することが予想されますので、再編・統合の際には、スクールバス等の通学支援や通学路の整備等を行い、負担の軽減と安全性の確保を図っていきます。</p>	C
57	15	5(4)通学の負担軽減と安全確保について	<p>少子化ならば仕方ないかもしれないが、再編する事により登校距離が長くなって朝の出発時間等の負担が親御さん、子供にとって精神的な苦痛にならないかが気になる。 登校する事だけでも不安を抱えている子供さんが多いので、そこを払拭してもらえるような対策も考えてほしいです。 (学校の位置やバス通学になるのならば通学費の負担等。)</p>	<p>現在、市内においても小学生4km以上、中学生6km以上は通学支援の対象となっていて、スクールバスか路線バスで登下校をしています。その経費は市が負担しています。 今後の再編・統合の際にもこの基準を適用していく予定です。</p>	C
58	15	5(4)通学の負担軽減と安全確保について	<p>学校を統合、再編すると知り驚きましたが、築年数が古い校舎も多いことと、少子化も進んでいることから、やむを得ないことかと思いました。校区が広がることで、通学距離が長くなってしまふ生徒へのスクールバスなども考えていかなければいけないですね。</p>	<p>再編や統合を進めることで学校までの距離が遠くなり、通学の負担が増加することと安全面での不安が発生することが予想されますので、再編・統合の際には、スクールバス等の通学支援や通学路の整備等を行い、負担の軽減と安全性の確保を図っていきます。</p>	C

No.	ページ	項目	意見	市の考え	対応区分
59	15	5(4)通学の負担軽減と安全確保について	2.通学問題 ・遠方の場合の通学方法 通学バス、家族対応、自転車 それぞれの目安となる自宅からの距離 思いつく範囲ですが、片親世帯などマイノリティの置かれた方を基本視点で、システム作りは進めてほしい。	再編や統合を進めることで学校までの距離が遠くなり、通学の負担が増加することと安全面での不安が発生することが予想されますので、再編・統合の際には、スクールバス等の通学支援や通学路の整備等を行い、負担の軽減と安全性の確保を図っていきます。	C
60	15	5(4)通学の負担軽減と安全確保について	小学生で4km以上、中学生で6km以上でバスなどで通学を検討していると思いますが、現代社会問題でもよく聞かれる様に、子供の体力低下が言われています。バス通学になると余計に体力低下が心配になります。その分カリキュラムの中で体育を増やすとかであればおぎなえるかもしれませんが、小学1年から英会話の授業があったり、算数など授業数が決まっている(?)などで、体育の授業が増えるとは思えない不安です。今の時点でもプールの授業とかすごい減ってますよね。家庭だけではおぎなえなかったり、「学校で同級生とやる」というのが、成長期の中で全然意味が変わってくると思います。	通学にかかる時間を考慮しても小学生4km、中学生6km以上は通学支援が必要だと考えます。 しかしながら、バスは玄関に横付けするわけではなく、子どもたちは停留所やバスが安全に停車できる拠点まで歩いて集まってもらい、そこからバスに乗りすることになるため、まったく歩く距離がなくなるということではありません。 体育の授業時数については、学校週5日制が導入された際に削減されましたが、子どもの体力低下が課題となった平成20年代以降授業時数は増加しています。子どもたちの体力低下については、体育の授業や通学に起因するというよりは、遊び仲間や遊び場の減少によって、外で遊ぶことが少なくなった等の理由による部分も大きく、体力の低下を防ぐためには地域や家庭での対策も必要と考えます。	D
61	15	5(4)通学の負担軽減と安全確保について	小中学一貫になり小学生の通学距離が4km以上なら通学補助が適用されるとの事ですが、4kmに設定した理由又は定義を教えてください。なぜ4km以上なのか？例えば通学距離が3.9kmだったとして、適用外で歩行による通学になりますが高学年と低学年で負荷が大きく異なると思います。小学生という括りでまとめるのではなく、低学年・中学年・高学年で適した歩行距離にする事も検討した方が良いのではないのでしょうか？	公教育の機会均等の観点や、通学距離が児童生徒に与える影響を考慮し、小学生は4km、中学生は6kmを最高限度として、それ以上の距離を通学する子どもたちには通学支援を講じるべきとする国の指針に基づき設定しています。ただし、掛川市の場合、厳密に4km、6kmとして運用しているわけではなく、自治区境を境界としていたり、学年によって徒歩通学とバス通学を区分けする等の弾力的な取り扱いは行っていますので、今後、学校の位置が決まり開校準備に向けた検討、準備の段階で具体的に協議、決定していきます。	B
62	15	5(4)通学の負担軽減と安全確保について	少子化が進むことを考えれば、教育水準の維持の為、また財源の効率的な活用の為に統廃合は免れないと思います。 しかしながら、通学支援の対象が小学生で4km以上というのは如何なものかと思います。通学支援の拡充を強く求めます。 小学生が往復8kmの道を徒歩で通学し、学習する余力が残るのでしょうか？ ランドセルの平均の重さは4.28kgと聞きます。23～25kgの小学1年生が、体重の17%強のランドセルを背負って8キロ歩く。とても先進国の教育環境とは思えません。	公教育の機会均等の観点や、通学距離が児童生徒に与える影響を考慮し、小学生は4km、中学生は6kmを最高限度として、それ以上の距離を通学する子どもたちには通学支援を講じるべきとする国の指針に基づき設定しています。ただし、掛川市の場合、厳密に4km、6kmとして運用しているわけではなく、自治区境を境界としていたり、学年によって徒歩通学とバス通学を区分けする等の弾力的な取り扱いは行っていますので、今後、学校の位置が決まり開校準備に向けた検討、準備の段階で具体的に協議、決定していきます。	B
63	15	5(4)通学の負担軽減と安全確保について	遠距離通学の児童生徒にはスクールバスを希望します。路線バスの利用は、教育活動に制限がかかるので、できれば避けたいと思います。	市内の路線バスの運行経路はそれほど多くありませんので、多くの場合はスクールバスを運行することになると想定しています。既存の公共交通機関が活用できる場合には、その利用についても検討していく予定です。	B

No.	ページ	項目	意見	市の考え	対応区分
64	15	5(4)通学の負担軽減と安全確保について	現在の通学距離に関わらず、交通量や安全面を考慮して学区や通学手段を検討してほしいです。新しい住宅地ができ、近距離に小学校があるのに遠距離の小学校に通学している学区割は近所の子供達と関係が築けない、下校時の危険性など心配されます。また、朝の登校時7時前に集合している地区がありますが、冬はまだ日が昇る前です。通学の危険性、子どもの睡眠不足に繋がるので通学バスを出した方が良いと思います。	学区を考える上では、地域自治組織とのつながりが重要であると考えています。自治組織の重要な単位である地区と学区の枠組みが一致することが望ましいと考えているため、場合によっては遠くの学校に通うような地域もあることを御理解ください。 本市は市域が広いことから、比較的遠距離を通う子どもがいます。現在は、小学生4km、中学生6km以上については通学支援を行っています。この基準を大幅に緩和するとスクールバスの運行費が大幅に増加することが想定されます。今後、学校再編にあわせてどのような基準が適切なのか検討していきます。	D B
65	15-16	5(6)プールについて	プールについては大きな課題だと思えます。指導期間が短い割に莫大なお金がかかります。児童生徒に指導する立場とすれば、新しい一貫校の敷地の中にプールも作っていただきたいと思えます。それまでの期間は、共同化や民間施設を含めた外部施設のプール利用もしかたないと思えます。	今後、一貫校にプールを新設した場合と、民間のプールを活用する場合との経費の比較しながら、学校プールのあり方を検証していく予定です。	B
66	16	5(8)事前交流活動について	統合する小学校に在学中の児童、生徒がスムーズに新しい学校に馴染めるような交流をしてほしい。 一クラスの数が増える学校もあるかと思いますが、学級補助をつけるなど細やかなサポートをしてほしい。	再編・統合を行う場合には事前に交流を行い、子どもたちがスムーズに新しい環境に慣れることができるよう配慮します。	C
67	17-18	6(1)住民との対話に基づく学校再編の推進	学校は、子どもたちがたくさんの人々とかかわり合い、お互いが高め合う大切な場所です。また、地域住民にとっては、みんなが共通の関心をもてる特別な場所です。施設管理や施設整備への負担軽減、不足する教職員の問題等もあると思えますが、地元住民の考えをできるだけ尊重していただきたいと思えます。また、第1期のトップバッターとなる原野谷中学校区の再編については、多くの市民が注目すると思えます。全市民が、「確かに学校再編は必要である。」と思えるような計画の提案をお願いします。	学校は地域の拠点施設であり、住民の皆さんの精神的な拠り所となっています。また、住民の皆さんの御支援のおかげで学校の活動が行っている現状を鑑み、学校の再編・統合にあたっては、地域の皆さんと十分に話し合いを行った上で方向性を決定していきます。	C
68	17-18	6(1)住民との対話に基づく学校再編の推進	3. 地域との協力関係の構築 小学校を中学校に統合する計画に対して、地域住民の反発が起こることがあります。地域住民からは、小学校が地域の中心となっていることや、小学校に通う子供たちと地域のつながりが失われることへの不安が出る場合があります。一方でクラブ活動だけでなく、スクールバスの運営についても地域の協力なしには行えないと思えます。	掛川市では、これまで中学校区学園化構想を推進して、園・学校と地域との連携・協働を大切にしてきました。学校再編についても、地域の御理解を得ながら進めていくことが大切と考えていますので、地域と対話の場を設けて、住民の皆さんと十分に協議をしながら進めていきます。	C
69	17-18	6(1)住民との対話に基づく学校再編の推進	大変綿密なる分析で、公平に、かつ柔軟に、30年間の再変計画であると、感じています。この導きまでの御活動に謹んで敬意を表します。(案)中の小規模小学校の複式学級以前の統合においては、地域の考えに添ったものとなるようにお願いします。地域によっては、小規模校の活かし方などにアイデアもあろうかと思えます。宜しく願いいたします。	学校の再編・統合に際しては住民の皆さんとの十分な話し合いを行った上で進めていくことが重要だと考えています。御意見のとおり地域の皆様のお考えを伺いながら進めてまいります。	C

No.	ページ	項目	意見	市の考え	対応区分
70	17-18	6(1)住民との対話に基づく学校再編の推進	「地域性を十分考慮」「地域とともにある学校」「学校を地域の拠点」の「地域」は、学区ではなく、学校設置の場所である地域が「見える関係」になりやすく、学校がなくなった(子どもの声が聞こえなくなった)地域住民にとっては、学校への関心が少なくなる可能性はあります。学校がなくなった「地域」の今後を行政としてどうしていくのかが見えてきません。「教育委員会は担当が違うからわからない」のでしょうか。地域住民の皆さんの不安に応える場の設定と具体的施策はどのようにになっているのか知りたい。	掛川市では、中学校区学園化構想のもとで、中学校区内の住民の皆さんに広く連携していただきながら、中学校、小学校、園の教育活動を支援、学校と地域との協働を進めていて、地区の枠組みを超えた教育活動が広く展開されていることから、地区から学校がなくなることで、関心が薄れたり、活動が低下するという事はないと考えています。学校の統合・再編を行う際には、地域の公共施設のあり方や、廃校後の施設の取り扱いについて検討を行っていきます。それにあわせて、地域の活動やまちづくりをどのようにしていくか、住民の皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。	B
71	17-18	6(1)住民との対話に基づく学校再編の推進	「地域との合意」とは、誰がいつ決めるのか。保護者からは「どうせ上の人達が決める」と言われ、行政は「計画から実行」へと着々と進めているのではないかと、地域の方からは言われます。地域が主体となって決めるには、児童の保護者や就学前の子どもの保護者の意見を重視しつつ、地域住民の声(思い・考え)をどれだけだしていけるのか、聞いていけるのが重要になるかと思えます。「地域との合意」の前提の「地域住民の理解と協力」のための方策をどのように考えているのか。	学園ごとに地域検討委員会を立ち上げて、そこで検討を行っていただく予定です。その他に住民の皆さんへの説明会や意見交換の場を設けて、多くの御意見を伺っていきながら、どのように進めていくのかを検討していきます。	B
72	17-18	6(1)住民との対話に基づく学校再編の推進	中山間地である日坂及び東山地区は、お茶が主産業であるが、歴史的建造物も有する地域、そして勤労世帯も混在する地区です。その地域共同体をどの単位で維持していくのか？栄川中学校区としては、自治会が東山口を含め3つ存在し、その再編があるのか？学校施設含む公共施設再配置は、その考え方も大きく関わると思われる。地理的、地形的要因、そして地域の環境保全も含め考えると、現在の自治会単位の中に一定数の住民が居住し、地域共同体を維持していくことが望ましいと考えます。そのためには、その単位で最小限の公共施設は必要です。小学校、地域学習センター、広域避難所など、一部機能複合化してでも残していくべきと考えます。日東地区に学校や学習センターなどがすべてなくなった場合、どのような地域になってしまうのか不安を覚えます。居住するには、難しい環境になり、人口減少に拍車がかかり、そして高齢化と相まって、防災活動、福祉活動、地域の共同作業や交流行事などあらゆるものが維持困難となる恐れがあります。この筋の話は、教育委員会の扱い事項ではないとは思いますが、学校再編が影響する可能性はあり、市の当該部局は、熟考願いたいと考えます。	学校を再編する際には、地域生涯学習センター等地域の公共施設のあり方についても検討を行っていく予定です。その際には関連部局も検討の場に加わり、地域住民の皆さんと一緒に検討を行います。その検討にあわせて地域の自治組織のあり方も御検討いただければと思います。	B

No.	ページ	項目	意見	市の考え	対応区分
73	17-18	6(1)住民との対話に基づく学校再編の推進	「学校再編計画」を策定にあたっては、地域の声や願いを十分に聞き取って、地域の合意のもとに行われるべきだと考えます。この間に、保護者アンケートや意見交換会などが行われては来ましたが、教育委員会が主導の再編計画が進められてきたことは否めません。当初は新しい教育の推進のために「小中一貫教育」が必要だと言っていたのに、いつの間にか「小中一貫校」という話になり、今は小規模校を解消する学校の統廃合が主要な計画となっています。それが教育委員会の主導で行われていて、意見交換会といっても参加者に説明をし理解をしてもらうということにとどまっています。意見交換会に参加するのは地区の役員など一部の人たちです。子どもや孫を学校に通わせている多くの一般の人たちには「学校再編計画」がどのような中身でどのように進められようとしているのか全く周知されていないし、理解もされていないと思います。	再編計画策定後、中学校区単位で再編の方向性を地域の皆さんと協議していきます。その際には、検討委員会を設けて検討を行っていく予定ですが、あわせて地域住民の皆さんや保護者の方への説明会やワークショップの開催、回覧やホームページを活用した情報発信と意見聴取を行っていく予定です。	C
74	17-18	6(1)住民との対話に基づく学校再編の推進	・学校再編計画に、再編に先立つ倉真小と西郷小の統合が説明もなく加えられたが、2校の統合についての説明や意見交換が地元市民にないままの計画策定や推進は、地域の分断や市政への不信感を生むのでやめてもらいたいです。少子化や過疎がより進む倉真のような地域だからこそ、学校の存在を大きく感じている市民は多いはずで、市政としての事情があるのは当然だけれど、市全体が縮小している中では丁寧な合意形成を心がけるべきだと思います。 ・市政の少子化対策が期待される中で打つべき手は、現状を追った安易な統廃合ではなく、長期的に見て様々な状況へ対応可能な通学区域の再編などではないでしょうか。市としての教育の多様性を担保する姿勢も含めて検討するべきだと思います。	統合についても、今後地域の皆さんと協議を進めていく予定です。再編・統合の時期とも決定しているわけではなく、今後の地域との協議次第で早まる場合もありますし、遅くなる場合もあります。地域が学校を残すという選択をした場合には、統合を行わないということもあり得ると考えています。いずれにしても、子どもたちや地域の皆さんにとっても非常に重要な選択となります。現状をよく御理解いただき、多くの住民の皆さんの御意見を集約していただきながら市と地域と一緒に方向性を検討していきます。	B
75	18	6(3)学校再編の検討に着手する順番	再編には、さんせいです。しかし、なぜ、全体人数の少ない、栄川中の学区が、二期なのか？税を考えても一期にすべきでは？	再編の着手順については、児童・生徒数の増減の状況の他、校舎の老朽化度や災害発生の危険性なども加味しながら順位付けを行っています。	C
76	18	6(4)小学校の統合	中小は再編より前に統合を早く検討してほしい。複式学級は避けたい	今後の児童数の減少を見ながら、地域の皆さんと協議を進めていきます。	B
77	19	6(5)児童・生徒の不安軽減に向けた取組	新しい環境での生活に円滑移行できるとありますが、確かに子供達の負担が軽減されてとても良いとは思いますが、社会に出た時に対応出来る人間性の構築を学習の中に組み込んでいけるのかがどうか不安に思います。幼稚園から小学生、小学生から中学生、中学生から高校生と生活の中で自然と経験して身につけていく物というのが、成長期には物凄くあると思います。 私は、大人が、社会が何でも負担を軽減させてあげちゃうのはあまり良くないという考えなのでこういう意見になりますが、世の流れには逆らえないのも事実です。 学びが色々変わっているので、それに沿って、ですが、でも人間性の学び、成長を沢山組み込んでいただきたいと思っています。	新しい環境に馴染めない、特に小規模の小学校から規模の大きい中学校に進学した場合、最初の1年間はその傾向が顕著で、学校では様々な配慮が必要になります。 再編の目的の一つである学校規模の適正化を進めることで、小学校段階で1学年の人数が増えて、様々な人やその考えに触れ、社会性を身に付けることができると考えています。負担をなくすのではなく平準化することで環境が激変することを緩和させることができると考えます。	B

No.	ページ	項目	意見	市の考え	対応区分
78	20	7学校再編後の学校施設	合併はやむをえないかもしれませんが、合併することで、地域のコミュニティが薄れてしまうことを懸念します。廃校後の小学校の地域での役割や活用を考えて欲しいです。	地域のコミュニティの核となる施設としては地域生涯学習センターや地区センター等がありますが、今回の学校再編ではこれらの施設のあり方も含めた再編を検討していきます。また、学校跡地の取り扱いについても地域に大きな影響があると思われますので、廃校となる学校の跡地の扱いについては地域の御意見も伺いながら検討を進めていきます。	C
79	20	7学校再編後の学校施設	地域住民は既存の学校が無くなることで広域避難所等防災に不安をもつ方が多いと思いました。	学校は、子どもたちの教育のための施設である他、地域の拠点施設として様々な役割を担っていますので、再編により役割をどのように改めしていくのかについては再編に向けた地域との協議の中で、あわせて検討していきます。	C
80	—	その他	統合するのは良いが普通クラスよりも支援クラスが増えて教室や先生の数が必要でない学校もあるのでそういった問題も考えて欲しい	近年、支援を要する児童・生徒が増加しており、特別支援学級も増加傾向にあります。今後教室の不足が懸念される学校もありますので、こうした点も考慮して学校施設の整備を進めていきます。	B
81	—	その他	1. 教員の適正配置の難しさ 少子化を前提に考えれば、小学校を中学校区に統合する場合、効率化を優先に考えれば教員の配置が大きな課題と思います。小学校と中学校では教育内容や授業時間が異なるため、教員の配置によっては教育の質が低下することが考えられ、教員の負担軽減策や研修など具体化が必要だと思います。	掛川市では園小中一貫教育を推進しており、小中学校の教員は校種を越えた15年間の教育の全体像を把握する中で教育活動を行っていくことが求められています。これは単に教育を効率的に行うということではなく、学校で行う教育の質をより高めていくためのものです。 一貫校になった場合でも、小学校と中学校の教員の定数はそれぞれの学校種ごとに算定されますので、それぞれの学校に必要な人員は確保されます。掛川市としては、一体校になることで、中学校教員の教科ごとの専門的なスキルを小学校現場で活用したり、小学校教員のきめ細やかな指導を中学校で行う等、小中学校の枠組みを超えて、小中学校の教育の良い面を一体校の中で活用していきたいと考えています。	B
82	—	その他	先進事例の紹介：磐田市(旧豊田町)には新たに小学校と中学校を統合した事例があるかと思っています。このような事例について紹介して頂きたいと思っています。	静岡県内でも小中一体型の一貫校を整備する事例が増えてきました。再編計画策定後の地域と具体的な協議を進めていく際には、住民の皆さんに先進事例を紹介したり、実際に先進校を視察していただくことも予定しています。	B
83	—	その他	効率よくより良い環境、施設を整えていただくのは大変ありがたいと思います。 昨今、様々な方面から子供の個性、感性を育てていくための教育が多く取り入れられていると感じます。一方で、基礎学力の低下を大きく感じます。漢字、計算について、個々の自己学習に委ねられている部分が大きく、一方で学童に通う子どもも多い中、学童では勉強を一切やらせない方針のところもあり、やらなければいけない最低限の学習方法も身につけられない子どもが多く見受けられます。 支援学級に入るのも難しい昨今、やはりせめて小学生のうち、そのあたりの道筋を教える教育も必要ではないかと思っています。 あるときはみっちり基礎を、あるときは応用に振り切ることを、お願いできればと思います。 また、中学校および小学校の荒れている学校についても気になります。	掛川市では、子どもたちが身に付けたい力を「未来を切り拓く3つの創る力」と定めて、学校、家庭、地域で育てていけるよう働きかけを行っています。 3つの創る力をバランスよく育てていくことが大切であると考えていますので、基礎学力や学習習慣の定着についても学校で指導をしています。しかしながら学校ですべてを指導することは困難ですので、家庭や地域と連携、協働しながら、子どもたちが力を身に付けられるように、教育委員会としても努めてまいります。この件については、方針や施策の概要などを掛川市教育振興基本計画に記載をしていますので、こちらをご覧ください。 また、学童保育所では、活動を通じて、子ども自身が主体的に過ごせるよう運営を行っています。そのため、学習面においても子どもたちが自主的に宿題・自習等の学習活動を行える環境を引き続き提供していきます。	B

No.	ページ	項目	意見	市の考え	対応区分
84	—	その他	再編成時の計画案を支援級についても考慮した案としてほしい。	特別支援学級は、近年市内でも増加傾向にあり、今後教室の不足が懸念される学校もありますので、こうした点も考慮して学校施設の整備を進めていきます。	B
85	—	その他	財政のこと、地域住民の思い等々様々な課題があると思われませんが、時代は待たなして変化しています。だからこそ、早急な対応を切に願います。	少子化や校舎の老朽化が進み教育の中味も大きく変わっていく中で、小中学校の再編、統合は待たなしの状況にあると考えています。地域の御理解をいただきながら速やかに進めていきたいと考えています。	B
86	—	その他	この地区では反対する人がいる、という話も聞きますが、現在～少し先の将来の子育て世代はそうは思っていないのではないかと感じています。	地域の中でも、様々な意見をお持ちの方がいらっしゃいます。丁寧に意見を伺い住民の皆さんで共有していただきながら地域としての方向性を検討していただくことが必要だと考えています。様々な世代の住民の皆さんと再編について検討をしていきます。	B
87	—	その他	これからだと思いますが、案の文字だけだとよくわからない部分があるし、文字だけだと読みたがらない人もいるかなと思うので、グラフや絵をたくさん活用して、目に見えるところに掲示していただけるとうれしいです。図書館、市役所、保育園、TVボードで再生etc 見える化、わかりやすさの情報で保護者をまきこんでほしい。	広く市民の皆さんに計画を知っていただくことが大切だと考えています。わかりやすい資料作成を心がけるとともに、様々な媒体を通じて皆さんに情報をお伝えしていきます。	B
88	—	その他	実際に再編によって影響を受けるのは子どもたちです。事務局、保護者だけでなく、子ども達の意見も聞いていただきたいです。 再編の理由、何がどう変わるのかを丁寧に説明すれば、子供も理解できると思います。それが、子供達の考える力にもなると思います。そして、親子の会話のきっかけにもなると思います。	学校再編を進めるべきか、そうでないか。その枠組みをどうするのかについては大人が責任を持って判断すべきだと考えています。子どもたちは年齢により判断能力に差があるとは思いますが、大多数の子どもたちが現在の学びの環境が最良と考えているはずで、それに代わる教育環境についての知識や経験が大人に比べて圧倒的に少ないことから、子どもたちが客観的な観点から再編について考えることは困難であると考えています。 なお、施設の整備段階等では子どもたちの意見も聴いて、設計に反映していく予定です。	D
89	—	その他	少子高齢化が今後もっと加速していく中で、再編計画は非常にやってほしいことです。少しでも早く実現する事を切実に願ってます。	少子化の進展や校舎の老朽化等の課題に対応するために、速やかに進めていきたいと考えています。	B
90	—	その他	教職員の多忙化を解消するということで、宿題の丸付けをやったり、支援員を増やしたり、様々な対応がとられています。しかし子どもの人数が減ってきているということで、正採用の教師も減らされてきています。先生たちが心にゆとりを持って子どもたちと関われる体制(クラスの人数を25人にする、報告文書等を減らすなど)を作ることが大切だと考えます。先生たちが、授業のことを考えたり子どもと関わったりする時間を保障し、子どもたちを育てるというすばらしい仕事にやりがいを持って取り組めるよう考えていっていただきたいと思います。	近年、教員の厳しい労働環境が報道等で取り上げられ、働き方改革が急務となっています。掛川市でも様々な教員の働き方改革に取り組んでいます。 学校に勤務する教職員が、子どもたちと向き合う時間を十分に確保でき、やりがいを持って仕事ができるような環境を整えていきます。	B

No.	ページ	項目	意見	市の考え	対応区分
91	—	その他	<p>この数年学校再編についてのいろいろな会合に参加したが、最初から現在までを見ると迷走感が否めない。</p> <p>山田文子教育長の頃、テーマは「小中一貫教育」で、学校統廃合ではなかった。</p> <p>市民からの質問には全て回答が頂けるとのことだったが、いまだに「あの質問の回答は？」がいくつもある。</p> <p>一例として、「市内の児童の少ない学校と多い学校で、子どもの学力等などのくらいの差があるのか？」という質問をされた方がいた。これに対する回答を、その後配布された資料などで見た記憶がない。この方は、掛川市が小中一貫校を進めたい具体的な根拠を知りたかったのだが、一般論ばかり説明されて、判断に困るとこぼしていた。</p> <p>また、当時地域住民からなる検討委員会(名称は違うかも)が組織され、視察や議論を重ねて最終的に市長に答申が出された。</p> <p>しかしその後北公民館で開かれた説明会で、当然この委員会が住民に説明すると思っていたところ、雑壇に並んで説明をしたのは教育長をはじめとする教育委員会の職員だった。</p> <p>それは筋が違うのでは？とただしたら、司会が「委員会は答申を出した時点で任を終えた」と答えたので驚いた。この日は年度末で、委員の任期は3月31日までのはず(後で確認した)。</p> <p>そうしたら、土方の区長(当時)からも、今まで一度も委員会の人たちからこの件について報告を受けたことがない、そもそも委員会のあり方がおかしいのではないか？という本質的な疑問が出された。</p> <p>この件だけではない。掛川市にはこうした事例がいくつもあり、私が直接関わったもの、関わった人から聞いたものを合わせると、市民自治をどのように進めるのかというところに行き着く。</p> <p>去年の学校再編ワークショップ、あれも言いつばなしになっていないだろうか？</p> <p>自由に意見を言うのは大事。でも担当課の皆さんはそれをどう受け止めたのだろう、どう政策に反映させるのだろうか——私が知りたいのはそこ。</p> <p>掛川市の潜在的なポテンシャルの高さを、どうか潰すことなく活かして欲しいと感じたこの数年間だった。</p>	<p>学校再編を進めていく方針の一つが小中一貫教育の効果を十分に発揮することができる学校づくりを進めていくことであり、この点については平成29年当時と変わりありません。</p> <p>御指摘の説明会は城東中学校区でのものだと思いますが、学校ごとの学力については(点数化できるものについては)学校ごとの大きな変化はなく、むしろ課題となるのは点数化できない非認知能力の育成の点であると回答しており、未回答ということはありません。</p> <p>同検討委員会には地区区長やまちづくり協議会の会長もメンバーに加わっていただいていること、各自治区に回覧をお願いするとともに、ホームページにも検討の状況を掲載するなどして住民の皆さんへの情報提供に努めてきました。</p> <p>再編計画の策定や再編に際して住民の皆さんの御意見を伺いながら進めていくことが大切だと考えていますので、今後も住民の皆さんとの協議を行いながら検討を進めていきます。</p>	B
92	—	その他	<p>学校再編について、意見を述べる機会をくださりありがとうございます。</p> <p>今後の学校再編、掛川市に期待しています。よろしく願いたします。</p>	<p>今後も住民の皆さんとの対話を行いながら再編を進めていきます。</p>	B